

音楽科学習指導案(第4学年)

1 題材名 「せんりつの重なりを感じ取ろう」

歌唱「パレード ホッホー」、「もみじ」

器楽「ハッピー バースデイ トゥ ユー」、「雨の公園」

鑑賞「アルルの女 第2組曲」より「ファランドール」

2 考察

(1) 教材観

①学習内容

本題材では、みんなで声や音を合わせて演奏する能力をさらに伸ばし、旋律が重なり合う響きを味わっていく。鑑賞教材「ファランドール」では、旋律の重なりが生み出す曲想を感じ取りながら、楽曲の構造や重なり合う面白さを感じ取らせていく。歌唱教材「パレード ホッホー」、器楽曲「雨の公園」では、旋律の特徴を生かした表現を話し合ったり、重なり合う響きを味わったりしながら、旋律の重なりを楽しんで演奏していく。また、歌唱教材「もみじ」では、様々な旋律の重なりが表れるため、くり返し歌うことで重なり合う響きの美しさを味わっていく。表現と鑑賞を関連させて取り上げることで、旋律の重なりが生み出す曲想を味わい、楽曲の構造に気を付けて聴いたり演奏したりする力を身に付けられるようにする。

〈学習指導要領上の位置付け〉

- ・A表現 (1)歌唱 イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
ウ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。
エ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。
- (2)器楽 ア 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。
ウ 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。
エ 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。
- ・B鑑賞 ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。
イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。
ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。
- ・本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素
音色、旋律、音の重なり、フレーズ、反復、変化

②主な伸ばしたい資質・能力

- ・音楽を形づくっている要素を聴き取る力。
- ・曲想にふさわしい表現で演奏する力。
- ・音楽表現を工夫し、思いや意図を音で表現する力。
- ・学習したことを生活や今後の学習へ活用しようとする態度。

③そのために必要な指導・学習活動

- ・旋律の特徴を感じ取ったり、旋律の重なりを感じ取ったりする活動。
- ・旋律に合う息の使い方や音色で演奏する活動。
- ・自分たちの演奏を聴き合い、歌い方を工夫していく活動。
- ・二つの旋律が重なり合って作られている曲を探す活動。

④今後の学習の活用

第5学年では、旋律の重なり方の違いが生み出す曲想を感じ取りながら、それを生かした演奏の仕方を工夫する活動を行っていく。また、和音の響きの違いや和音の移り変わりを感じ取り、その響きの美しさが感じられる豊かな表現を目指し、表現の仕方を工夫していく。

(2) 児童の実態及び指導方針 (計24名)

①既習の学習内容や活動

第3学年では、「音を合わせて楽しもう」の題材において、互いの歌声を聴き合いながら歌ったり、旋律や音が重なり合うおもしろさを味わって合奏したりしてきた。鑑賞の学習では、「アルルの女」第1組曲の「かね」を、二つの旋律の重なりや楽曲の構成に焦点を当て鑑賞してきた。また、第4学年の「拍の流れにのってリズムを感じ取ろう」の学習では、「問いと答え」「音の重なり」に焦点を当て、言葉によるリズムアンサンブルをつくる活動を行った。創作や発表をする中で、「反復(くり返し)」や「変化」を意識して演奏してきた。

②本題材に関わる児童の実態

本学級の児童は、新しく学習する楽曲に対する関心が高く、どの活動も進んで取り組んでいる。児童の8割は、明るくのびのびとした声で歌うことができ、リコーダーの演奏においては、9割近くが、息の使い方やタンギングを意識しながら演奏することができる。また、音楽づくりにおいて、「問いと答え」や「音の重なり」を意識して音楽をつくったり、演奏したりすることができる。さらに、鑑賞においては、旋律の変化などから場面の様子を感じ取って聴くことができる。

しかし、一方で曲想に合った歌い方を工夫したり、楽曲に対して思いや意図をもって演奏したりしようとする児童は6割程度と少ない。また、リズムや音の重なりについては知識として理解をしているが、実際に自分が出した音を確認しながら演奏する児童は7割程度と少ない。

以上のことから、本題材で、曲の構成を意識して聴く力や自分の出す音を意識して演奏する力を身に付けさせたい。そして、旋律の重なりから生まれる様々な曲想に触れながら、曲想に合った音楽表現を工夫していくことで、豊かな情操を養い、自分の思いや意図を進んで表現しようとする児童の育成に迫っていく。

③指導方針

- ・旋律を重ねて演奏する場面と別々に演奏する場面を聴き分けることができるよう、それぞれの旋律のもととなる楽曲を鑑賞する活動を設定する。
- ・旋律の移り変わりや旋律の重なりを視覚的に理解することができるよう、学級を二つの旋律グループに分けて聴き取る活動を設定する。
- ・旋律の重なり合いに親しみをもつことができるよう、二つの旋律が重なり合っている楽曲を探す活動を設定する。
- ・明るくのびやかな歌声を生かしていけるよう、発音や呼吸の仕方を合わせて歌う活動を取り入れる。
- ・サミング奏法を身に付けられるよう、楽譜上でサミングを用いる音を色分けする活動を設定する。
- ・旋律が重なることによって生まれる曲想を感じ取ることができるよう、輪奏と斉奏の響きのちがいを聴き比べる活動を設定する。
- ・旋律の重なりが生きる歌い方について工夫することができるよう、録音演奏を聴きながら自分たちの合唱のよさや課題について振り返る活動と、話し合ったことを演奏して確認する活動を交互に取り入れる。

3 校内研修とのかかわり

本校の校内研修は、「基礎的・基本的な学習内容を身に付け、主体的に考えや思いを伝える児童」の育成を目標としている。そのための具体的な手立てとして、『はばたく群馬の指導プランⅡ』を活用した授業改善として、目的をもった「言語活動」を充実させること、そのために効果的な学習形態を工夫させることが挙げられている。「感じ取ったことを言葉で表す言語活動」と、「言葉で表したことを実際に確認する音楽活動」の往還を大切にするすることで、音楽科における思考力、判断力、表現力を高められると考えられる。また『はばたく群馬の指導プランⅡ』には、音楽科における題材のつくり方のポイントとして「音や音楽の特徴を捉えることができるよう、感じ取ったことと音楽を形づくっている要素とその働きを問いかける。」ということが示されている。そこで本題材では、題材全体を通して曲想を感じ取り、その曲想のもととなる音楽の特徴を考える活動を取り入れていく。また、感じ取ったことや聴き取ったことを言葉で伝え合い、共有する言語活動と、話し合ったことを実際に演奏したり、再度音楽を聴いたりする音楽活動を交互に行うことで、思いや意図をもち、よりよい音楽表現を高めていく児童の育成を図りたいと考える。

4 題材の目標

- ・旋律が重なり合う響きを感じ取りながら、旋律の特徴を生かした歌い方や演奏の仕方を工夫したり、互いの歌声を聴いて声を合わせて歌ったりする。
- ・旋律の特徴、旋律の重なりによる曲想とその変化を感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴く。

5 評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	表現の技能	鑑賞の能力
旋律の特徴や重なりが生み出す曲想やその変化を感じ取り、進んで学習に取り組もうとしている。	互いの声や音を合わせて歌ったり演奏したりする表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	旋律の重なり合いを感じ取りながら、旋律の特徴を生かして演奏している。	旋律の重なりが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。

6 指導計画（全8時間予定 本時は1時間目）

学習 過程	時	○ねらい ・主な学習活動	指導上の留意点	評価の観点			
				関	創	技	鑑
つかむ 追求する	1 (本時)	「ファランドール」 ○二つの旋律の重なり合いから生まれる曲想を感じ取る。 ・「王の行進」と「馬のダンス」の楽曲を聴き、二つの旋律の曲想を感じ取る。	・二つの重なり合いを意識させるために、それぞれの旋律のもととなる曲を鑑賞する活動を設定する。	○			○
	2	「パレード ホッホー」 ○二つの旋律の違いを感じ取り、それぞれに合う歌い方を工夫する。 ・ ア と イ の旋律を歌い、それぞれの旋律の特徴について話し合う。 ・ ア と イ の二つの旋律を重ねて合唱する。	・旋律の重なり親しみを持つことができるように、「パレード ホッホー」のような二つの旋律が重なり合うパートナーソングを探す活動を設定する。	○		○	
	3	「パレード ホッホー」 ○二つの旋律の重なりが生み出す曲想を感じ取り、旋律が重なり合う面白さを味わう。 ・二つの旋律を重ねたときの曲想の変化について話し合う。 ・学級で二つの旋律グループに分かれ、それぞれのグループの演奏を聴き合う。	・旋律が重なり合ったときと別々に演奏するときの響きの違いを出すために、交替で聴き役をつくり、音量のバランスや演奏のよい点、改善点を話し合う活動を設定する。			○	○
	4	「ハッピー バースデー トゥ ユー」 ○サミング奏法について理解し、親指の動きを意識して演奏する。 ・フレーズに気を付けてリコーダーで演奏する。	・親指を動かすタイミングを意識させるために、サミングを用いる音に色で印を付け、動かすタイミングを目で確認できるようにする。	○			○
	5	「雨の公園」 ○サミング奏法を用いて、音色に気を付けながら演奏する。 ・サミング奏法を意識しながら、リコーダーで斉奏する。	・よりよい音楽表現の工夫につなげるために、曲名から情景を想像し、その曲想に合った音色を考える活動を設定する。				○
	6	「雨の公園」 ○旋律の重なりによって生まれる曲想を感じ取り輪奏する。 ・二つのグループに分かれて輪奏する。 ・曲想に合う表現について話し合い、輪奏する。	・旋律がおいかけてで重なり合うことで生まれる曲想を感じ取らせるため、輪奏と斉奏を行い、響きのちがいを聴き比べさせる活動を設定する。			○	○

まとめる	7	「もみじ」 ○歌詞の表す情景を思いうかべて合唱する。 ・歌詞を音読し、歌詞の表す情景を想像し、主な旋律を歌う。 ・発音や呼吸の仕方に気を付けて、前半部分の主な旋律を合唱する。	・言葉のまとまりやフレーズの終わりを大切に歌えるようにするため、発音や呼吸の仕方を合わせて演奏する活動を設定する。				○
	8	「もみじ」 ○重なり合う美しさを感じながら合唱する。 ・音程やリズムに気を付けて、後半部分の主な旋律と副次的な旋律を合わせて二部合唱する。 ・旋律の重なり合う響きを味わいながら二部合唱する。	・自分たちの演奏で、響きのよさを感じる部分、うまく重なっていない部分を実感させるため、自分たちの録音演奏を聴いて改善点を話し合い、話し合ったことをもとにもう一度演奏する活動を設定する。			○	○

7 本時の学習（1／8）

（1）ねらい 旋律の重なり合いから生まれる多様な曲想を感じ取ることができる。

（2）授業改善の視点

二つの旋律を聴き比べてから「ファランドール」を鑑賞することは、二つの旋律の重なり合いから生まれる曲想を感じ取らせることに有効であったか。

（3）準備

拡大譜、CD、カード、ワークシート

（4）展開 ※『はばたく群馬の指導プランⅡ』 P68～70 参照

学習活動 ・予想される児童生徒の反応	時間	指導形態	指導上の留意点及び支援・評価 ◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価
<課題の把握>			
1 「クラッピング ファンタジー」を演奏する。 ・「問いと答え」や「音の重なり」が使われた曲だったな。	3分	全体	○「音の重なり」に注目させ、「クラッピング ファンタジー」はリズムの重なりであったのに対し、本時の活動は旋律の重なりであることを伝える。
2 本時のめあてをつかむ。	2分	全体	○めあてを提示することで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[めあて] せんりつが重なり合うと、曲の感じはどうなるか感じ取ろう。</p> </div>			
<課題の追求>			
3 「王の行進」と「馬のダンス」を聴き、曲想や重なり方の違いを確認する。 ・「王の行進」は、低い音だから堂々としているな。 ・おいかけっこで重なっている部分は行列で歩いている感じだな。最初より人が増えた感じがするな。 ・「馬のダンス」は、音がはねていてはずんだ感じがするな。 ・音が高いから軽い感じがするな。	10分	全体	○「聴き取ったこと」（速さ、音の高さなど音楽を形づくる特徴）、「感じたこと」（曲の様子、雰囲気（曲想））を結びつけて考えさせるために、なぜそう感じたのか問いかける。 ○おいかけっこで重なり合うことによって生まれる曲想を感じ取らせるため、単旋律の場面と重なり合う場面を比較して聴くよう助言する。 ○「馬のダンス」は、旋律の重なり合いではないことを理解させるために、聴き取った使用楽器は何であったか尋ね、旋律（笛）とリズム伴奏（太鼓）の重なりであることを確認させる。

<p>4 「ファランドール」を聴き、二つの旋律がどのように表れているかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「王の行進」と「馬のダンス」が交互に演奏されているな。 ・最後は二つの旋律が重なっているな。 	5分	全体	<p>○旋律の移り変わりや重なりを意識させるため、学級を「王の行進」と「馬のダンス」の二つも旋律グループに分け、自分のグループの旋律が聞こえたらその場に立つように指示する。</p> <p>◎旋律の移り変わりを聴き取れない児童が、旋律の移り変わりを視覚的に理解させるため、⇒マークのマグネットを用意し、旋律の移り変わりに合わせて教師が動かしていく。</p>
<p>5 「ファランドール」を聴き、感じ取ったことをカードに書いてホワイトボードに貼ってまとめていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の感じがちがうせんりつを重ねても合うのだな。 ・二つのせんりつが重なると、曲の感じが変わるのだな。 ・二つのせんりつが重なると、もり上がった感じがするな。 ・「王の行進」は暗い感じだったけど、最後は明るい感じになったな。 	15分	グループ ↓ 全体	<p>○二つの旋律の重なりを意識できるようにするため、重なり合う場面を取り出して聴くように助言する。</p> <p>○二つの旋律が重なった曲想の変化に気付かせるために、4人グループで、旋律が重なりあった場面の曲想をまとめてさせ、比較させる。</p> <p>◇旋律の重なりが生み出す響きの面白さや、美しさを感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴いている。(ワークシート・発表)</p> <p style="text-align: right;">【鑑賞の能力】</p>

[まとめ]
 ○おいかげっこでせんりつが重なり合うと、続いていく感じがする。
 ○二つのちがうせんりつが重なり合うと、新しい曲の感じが生まれる。

<本時のまとめ>			
<p>6 題材の課題をつかむ。 (せんりつの重なりを感じながら演奏しよう。)</p>	5分	全体	○題材の課題を確認することで、題材全体の学習の見通しを持たせられるようにする。
<p>7 学習を振り返って、感想や気づきをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追いかげっこをやってみたいな。 ・二つのせんりつを重ねてみたいな。 	5分	個人	○本時を振り返らせ、取り組みのよさを称賛するとともに、次時の活動内容を伝え、学習の見通しを持たせる。

8 板書計画

④せんりつが重なり合うと、曲の感じはどうなるか感じ取るう。

おいかげっこ

王の行進

馬のダンス

おわり

二つのちがうせんりつ

⑤ ○おいかげっこでせんりつが重なり合う…行列続いていく感じがする。

○二つのちがうせんりつが重なり合う…もり上がる はく力出る

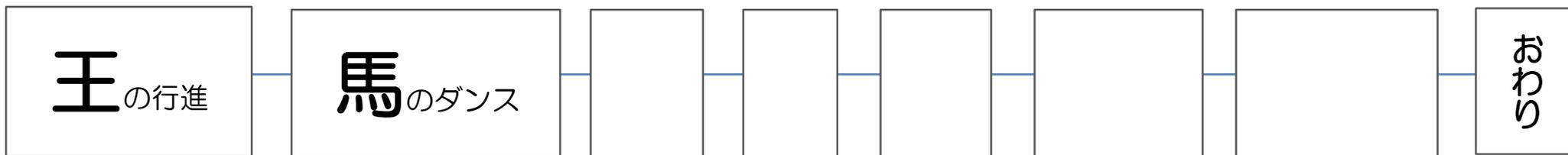
新しい曲の感じが生まれる。

「アルルの女」第2組曲より「ファランドール」 / ビゼー作曲

せんりつが重なり合っている
ところはどこだろう？



♪ 2つのせんりつは、どのように出てきますか。□に「王」か「馬」を書き入れましょう。



曲の感じ・様子

曲の感じ・様子

まとめ

-
-

ふりかえり

.....

.....

.....